



2025年10月31日

報道関係者各位

慶應義塾

第714回三田演説会

「小幡篤次郎 ー智徳の人・敢為の人ー」開催

福澤諭吉を支え、時に影響を与えた『学問のすゝめ』初版・同著者を紐解く

自分の意思を多数の相手に伝達する手段として、演説や討論という方法を日本に紹介したのは、福澤諭吉と初期の慶應義塾入門生でした。明治7年には三田演説会を組織して一般に公開することとし、また演説や討論の仕方を手ほどきした本や規則を発表して、その普及につとめました。慶應義塾はその伝統を脈々と受け継ぎ、日本最初の演説会堂である三田演説館において、毎年、三田演説会を開催しています。

本年の三田演説会は、12月16日（火）に「小幡篤次郎 ー徳の人・敢為の人ー」と題して、慶應義塾福澤研究センター所長の西澤直子教授が講演します。本演説会のイベント欄へのご掲載、およびご取材をぜひご検討くださいますようお願いいたします。

1. 開催概要

(1) 日 時：2025年12月16日（火） 14時45分～16時15分（開場14時00分）

(2) 講演者：西澤 直子（慶應義塾福澤研究センター所長・教授）

(3) 演 題：「小幡篤次郎 ー智徳の人・敢為の人ー」

『学問のすゝめ』初編の同著者である小幡篤次郎は、長く福澤諭吉の補佐をした人物として知られていました。しかし歿後120年にして初めて刊行された彼の著作集を紐解けば、彼の思想や行動は、福澤とはまた異なる拡がりを見せ、時に福澤に影響を与えています。近代日本の一知識人として、彼が果たした役割を考えます。

(4) 会 場：慶應義塾大学三田キャンパス 三田演説館（重要文化財）
東京都港区三田2-15-45

(5) 交 通：JR山手線・京浜東北線 田町駅下車（徒歩約8分）
都営地下鉄浅草線・三田線 三田駅下車（徒歩約7分）
都営地下鉄大江戸線 赤羽橋駅下車（徒歩約8分）
<https://www.keio.ac.jp/ja/maps/mita.html>



(6) 参加：入場無料・ウェブフォームから事前予約

<https://forms.gle/HUkC3yE4zgPMqKv97>

※定員に達し次第、受付終了予定。



2. 講演者 西澤 直子 プロフィール

〔略歴〕

1986年慶應義塾大学大学院文学研究科修士課程修了後、1988年まで嘱託として慶應義塾福澤研究センターに勤務。1994年から嘱託として復帰、2005年より専任教員（准教授）、2010年より教授。2024年10月から福澤研究センター所長。

『福澤諭吉書簡集』（2001年～2003年）編集委員、『福澤諭吉著作集』第10巻（2003年）編集・解題担当、『小幡篤次郎著作集』（2022年～2025年）編集委員長。

〔主要著書〕

『福澤諭吉と女性』（単著、慶應義塾大学出版会、2011年）

『福澤諭吉とフリーラヴ』（単著、慶應義塾大学出版会、2014年）

『講座明治維新9 明治維新と女性「明治維新と女性」』（共著、有志舎、2015年）

『明治の教養 変容する〈和〉〈漢〉〈洋〉「新たな智の形成-福沢諭吉と慶應義塾」』（共著、勉誠出版、2020年）

3. 三田演説会について

福澤諭吉は、「演説とは英語にて『スピーチ』と云ひ、大勢の人を会して説を述べ、席上にて我思ふ所を人に伝うるの法なり」（『学問のすゝめ』十二編）と述べています。演説という概念はその当時の日本には存在せず、多くの聴衆の前で自分の意見を述べるという「演説」を実践しながら、試行錯誤の末に創造されました。経緯は『三田演説日記』などの記録に記されていますが、演説の練習を行うにあたり「決して笑ってはならない」と取り決めたというエピソードが「演説会」創始の苦心を端的に物語っています。また、福澤は「演説」「討論」などの言葉も創り出しています。「演説」は「スピーチ」の訳語ですが、福澤の出身藩である旧中津藩で藩士が藩庁に対して意思を表明するために用いた「演舌書」という書面に由来します。「舌」という語句は俗的であったために「説」に換えたと福澤本人が述べています。旧来の言葉に「スピーチ」という新しい意味と実体を与えたことに大きな意味があったとされています。さらに「ディベート」の訳語を「討論」と定め、「否決」「可決」などの用語が決められました。

*本資料は文部科学記者会、新聞各紙社会部・文化部、イベント欄担当等に送信しております。

*ご取材に際しては、事前に下記までご一報下さいますようお願い申し上げます。

【本イベントに関する問い合わせ先】

慶應義塾広報室（担当：若原、宮崎）

TEL 03-5427-1541 FAX 03-5441-7640

Email m-pr@adst.keio.ac.jp <https://www.keio.ac.jp/>